



# 風が吹き抜ける場所

世界へ飛び立つための「翼」と「コンパス」を

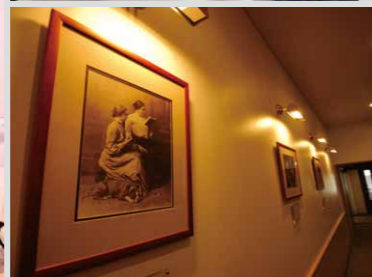


「翼」とは「教養」、「コンパス」とは「創意工夫に基づく判断力」を指す。  
学校周辺には旧渋沢家飛鳥山邸、古河庭園などがあり、都電沿線の穏やかな学習環境に恵まれる中、  
教員・生徒・保護者が三人四脚で教育の可能性を追求してきた。  
2014年度より新入生の全生徒に導入したiPadはその到達点であり出発点だ。  
桜丘ではすべての人々が革新者になる。

濱口敏美さんはダンス部に所属



で能動的な展開が起きている。  
帰国生の取り出し英語授業においては N E S (Native English Speaker) の指導の下、リーディングを中心に、発表やグループワークを行う。「アプリを使い画像や自分の声を入れたプレゼン資料を作って発表したり、グループで話す練習をよくしています。先生が、緊張しないようにとたくさん声をかけてくれるので話しやすく大好きです」(濱口さん)  
また豊富な海外研修が用意され、使うための実践的な英語教育を入学早期から行う。中1では週7時間の英語授業のうち5時間をNESが受け持ち、耳を養い、コミュニケーションの壁を取り払う。その上で中2でのシンガポール研修、中3での国内イングリッシュ・キャンプ、オーストラリアのケアンズでのホームステイと続き、段階を踏んで異文化社会を知り、交流を深めていくプログラムが組まれている。



妹校留学などが用意され、さまざまな企画で定員を超える応募が集まっている。さらに高校からは新たにCレクラス (Creative Leaders Class) が設けられ、帰国生や海外大学への進学を希望する生徒に向けてcritical thinkingやglobal issueを科目として扱い、国境や人種が異なるチームの中で他者と協力して社会に役立つ価値を生み出す人物の育成を行っている。「外を意識した教育を推進する中で、英語教育にも発表能力を高めるものが求められています。そこにiPadが入ることによってそのチャンスが増えたと感じています」(倉田教諭)  
こうした新たな取り組みが軌道に乗っているのは桜丘の校風が大きい。生徒と教員が積極的にコミュニケーションをとり、新たなアイデアが次々と生まれ、その喜びを共有している。この風通しのよさが向上心を生み、笑顔を生む。先生も生徒も和やかに話しやすいです。とても楽しくて、この学校に通えてよかったなと思うています」(濱口さん)。誰もが主役になれる場所、それが桜丘だ。



オーストラリア異文化体験旅行 現地校の生徒との交流やホームステイを行う

古き良き東京の面影を残す、閑静な町並みに建つ桜丘。しかし一転、ひとたび中に入れば、ミュージアムさながらに校内のいたる所に展示されているレプリカやカフェライブラリが知的好奇心を刺激する。そして新入生全生徒へのiPadの導入。校舎に漂う知への憧憬が心地よい。上海の日本人学校に通っていた濱口敏美さん(高二)は、桜丘に入学して初めてiPadに触れたという。「最初は不安もありましたが、今はすごく便利です。授業中に気になった言葉などもすぐに調べられますし、先生から送られたワークシートにiPad上で直接書き込むこともできます。また課題の提出方法も多彩になった。一つの問題でも、文字、イラスト、ノートを撮影したものなどそれぞれの個性が自由に発揮される。授業中に出示された課題もリアルタイムで全員の解答が閲覧可能で、さまざまな表現、考え方に触れる機会が増え、生徒の学習スタイルに大きな変化を与えている。  
指導方法においても個々の教員が目指す授業スタイルに大きく貢献している。授業前にプリントや動画を生徒に送り事前学習を行ったり、スライドを活用することで、板書時間がなくなり、活用できる時間が大幅に増加した。「化学や生物なら実験の様子をアップしておく、動画を見てから授業を受けてもらうことができます。他にも進学合宿の報告動画を見せたり、生徒への授業アンケートにも活用しています」(企画広報部長・倉田豊子教諭)。その上でディスカッションやブレゼンテーションなど生徒主体の活動を充実させ、科目を問わずさまざまな場面